

## 2. 事業の概要と成果

(1) プロジェクト 目標の達成度	【プロジェクト目標の達成度】 (プロジェクト目標) 保健施設の環境向上、伝統的産婆の能力向上、保健委員の能力向上、行政サービス（サポート）の向上を通じて、対象地域の住民と保健行政が連携した母子保健活動が実施される。
	<p>設定した下記 3 つの指標のうち、1 つは達成の途上にあるが、2 つが達成されており、プロジェクト目標は達成傾向にあると考える。</p> <p><b>指標 1： 地域住民の母子保健活動への参加が増える。</b></p> <p>→ 「参加者数」の増加が確認でき、達成 事業期間中、村内における保健委員による啓発活動、市役所や NGO との共同のイベント、市長・市議及び各村のリーダーなどが集まり、村と市が意思疎通を図る重要な機会である市開発委員会（以下 COMUDE=Consejo Municipal de Desarrollo）等、144 回の機会を通じて、のべ 2,669 人の地域住民が母子保健活動に参加した。</p> <p>活動参加者総数が第 1 期より 450 人以上増加したことに加え、参加層も広がった。当地域では、情報を得たり学んだりする機会が乏しく、母子保健は一定の状況下の女性だけにかかわる課題だと考えられていたが、妊娠婦のみならず、中高年齢の女性、男性、思春期層まで幅広い層の人々が参加するようになった。特に、後述するように、メンバー全員が男性の COMUDE で研修を継続できたことで、妊娠と出産にまつわる健康が村全体にとって重要であるということについて、地域のリーダーである男性たちの理解を促し、また地域住民が母子保健活動に参加しやすい雰囲気の醸成につながり、成果の達成に大きく寄与した。</p> <p><b>指標 2： 伝統的産婆及び保健委員が、リファラルを必要としている患者を保健所へ適切かつタイムリーにリファーしている。</b></p> <p>→ 「リファー数」の増加が確認でき、達成 伝統的産婆は、①妊娠の可能性がある女性には黄色、②2 回目以降の定期産前健診の必要な妊婦には緑色、③危険兆候が見られる妊婦には赤色のカードを渡し、保健所への訪問を促している。その結果、59 人の伝統的産婆（対象地域の全伝統的産婆の 84%）による指導が、①で 208 人、②で 334 人、③で 40 人の合計 582 人（2019 年 3 月—2020 年 2 月、平均 48 人／月）の保健所訪問に結びついており、1 年前（第 1 期終了時）より保健所訪問（リファー）数は月平均で 15 人増加した（第 1 期 2018 年 4 月—2019 年 2 月のリファー（保健所訪問）数：365 人、平均 33 人／月）。</p> <p>これらのリファーにより、①については、早い時期に妊娠の有無を確認し、その後の体調管理を促すことができ、②についても、妊娠が順調であるかを確認するとともに、危険な状態を引き起こす前に前置胎盤や多胎児のようなリスクを発見することができるようになり、保健所からも、早期にリファーされるケースが増えたとのコメントが聞かれた。家族の無理解により健診に来ない妊婦を産婆や保健委員が発見した場合には、家族を説得して妊婦を保健所に導くことができたケースも確認された。また、③により、保健所は出血や発熱した妊婦に対応することができた。伝統的産婆からは、事業による研修を通じて以前はあいまいだった危険兆候を、自信をもって見分けられるようになったとのコメントが聞かれており、リファー数の増加に繋がったと考えられる。</p>

	<p><b>指標3：保健所の利用が増加する。</b></p> <p>→ 産後一ヶ月以内の健診数は増加したが、他の指標に変化がなく、一部達成。事業の第1期（2018年3月～2019年2月）と第2期（2019年3月～2020年2月）を比較すると、保健所での初回妊婦健診数は577件から509件へ、2回目以降の健診は1,090件から925件へと、若干減少している。保健所は第2期の利用が伸びなかったことについて、予防接種キャンペーンの実施により看護師が保健所を離れる時間が例年より長かったことが影響したのではないかと分析している。また、同期間で比較した保健所での出産は130件から129件へと変化が見られなかった。（コミュニティでの出産についても、239件から238件へと変化は見られなかった。）他方、産後健診について、24時間以内の健診数は348件から338件とほぼ横ばいであったが、30日以内の健診数は225件から342件と1.5倍に増加した。出産については、市外（県都）の病院や県外での出産も一定数あることから、出産後に対象地域に戻って産後健診を受けた受益者数が、本指標の利用者数を反映しているものと考える。</p> <p><b>【上位目標への貢献】</b>  <b>(上位目標) 対象地域における母子の健康が向上する</b></p> <p>本事業の実施を通して、市全域に居住する伝統的産婆と、約半数の保健委員の能力が向上し、住民と保健所との橋渡し役を果たせるようになった。その結果、村と保健施設のコミュニケーションが向上し、妊産婦による保健医療サービス利用が促進されており、母子の健康向上に貢献している。また妊産婦死亡ゼロの状態も維持されており、行政と住民との協力関係が強化されたことを裏付けている。</p>
<b>(2) 事業内容</b>	<p><b>1. 保健所の環境向上</b></p> <p>サン・バルトロメ・ホコテナンゴ保健所（以下保健所）の敷地内に約199.67m<sup>2</sup>の研修棟を建設した。2019年3月に着工し、基礎工事、躯体工事、壁面工事、外装、内装工事は予定より順調に進み、6月26日に完成して業者から引き渡された。100人以上収容できる本研修棟は、天井も高く涼しいと評判が高く、また男女別のトイレが設置されたことで付加価値を高めた。</p> <p>7月9日にはキェンジニアリング事務所長はじめ、保健所（34人）、市役所（7人）、伝統的産婆（6人）、保健委員（140人）など188人が出席して開所式が行われ、机1台、椅子100脚、白板1台も併せて提供された。また、電子体温計と産科用メジャー（巻尺）の不足・故障が診察に時間がかかる原因の1つとなっていたため、電子体温計6本と産科用メジャー25個も提供された（2020年2月14日付変更報告）。</p> <p><b>2. 伝統的産婆の研修と啓発活動</b></p> <p>保健所および伝統的産婆が協議して、産婆の模範となり、他の産婆を指導できる8人の「産婆リーダー」が任命された。その後保健所スタッフと内容を協議しながら、これらリーダーに対する研修および対象市で活動している伝統的産婆全員（産婆リーダーを含む70人）に対する研修を実施した。</p> <p>・研修</p> <p>産婆リーダーを対象に、以下のテーマを中心に8回研修が行われた。</p>

- (1) 適切な時期の産前健診の重要性
- (2) 健康な周産期を過ごすために必要なこと
- (3) 家族計画
- (4) 両親の責任
- (5) 妊婦の家の機能の理解及び病院への適切なリファー
- (6) 出産中の危険兆候
- (7) 母乳の重要性と母乳が出ない場合の対応

また、2019年9月に実施された研修は、特別にスタディツアーやセミナーを兼ね、保健所の搬送先であるキチエ県病院（県都）に併設されている妊婦の家を訪問した。初産や多胎児など病院で出産すべき妊婦を、余裕をもって搬送することの重要性や、妊婦は出産を迎えるまで何日でも無料で滞在できることなどの説明を受けた。同ツアーやセミナーには同県内サンタ・クルス市、チチカステナンゴ市、サン・アントニオ・イロテナンゴ市の伝統的産婆も参加しており、経験共有の場も設けられた。サン・バルトロメ・ホコテナンゴ市の伝統的産婆からは、本事業で研修を受けて、保健所との連携の重要性を理解し、実際に以前より連絡を取るようになったこと、チチカステナンゴ市の伝統的産婆からは、自身は危険兆候があればすぐに保健所に連絡するが、自分の力を過信して危険兆候があつても保健所へ連絡しない仲間がいることのリスクについて気づくことができた等のコメントがあった。

一方、リーダーを含む産婆全員に対する研修は5回行われ、特に(1)緊急時の対応・搬送に遅れる要因、(2)緊急事態を起こさないための準備、(3)新生児の扱いと危険兆候、(4)出産中の危険兆候、(5)病院へのリファーが必要なケースと病院付属妊婦の家の紹介の5つのテーマを中心に取り上げ、各回平均58人が参加した。

#### ・啓発活動

第1期からの対象地である9村に居住する伝統的産婆25人が、本事業スタッフ同行のもと76人の妊婦を訪問し、研修で学んだ妊娠期間の過ごし方や危険兆候などを妊婦とその家族に伝えたことを確認した。同行することにより、産婆の知識が不十分であることが分かったときには説明を補足するなどしたこと、産婆たちは回数を重ねるごとに自信をもって伝えられるようになった。

### 3. 保健委員の研修と啓発活動

第1期に保健委員を育成した9村に加え、村からの希望や保健所の要望により新たに選定した6村を合わせた全15村で、合計262人（男84、女178人）の保健委員を選出した。

#### ・研修

これらの保健委員を対象とした研修計画を保健所とともに策定し、対象15村で以下のテーマに関する研修が実施され、のべ1,764人が参加した。

- (1) 健康な周産期
- (2) 両親の責任
- (3) 緊急時の対応・搬送に遅れる要因・緊急プランの重要性
- (4) 大量出血時の対応及び妊娠中の危険兆候
- (5) 産前健診の重要性
- (6) 妊娠中の栄養

- (7) 思春期の体の変化・若年妊娠予防
- (8) 新生児の危険兆候
- (9) 病院ヘリファーが必要なケースと妊婦の家紹介
- (10) 出産中・出産後の危険兆候

また、コミュニティ全体で母子保健を促進するための情報共有を目的として開催された定例会合の機会を利用し、のべ 396 人の保健委員が（1）適時のリファー、（2）病院付属妊婦の家の役割、（3）家族内での緊急プランの重要性、（4）保健委員の役割と重要性について、研修成果を上積み、または補完するかたちで学ぶ機会を得た。

#### ・啓発活動

15 村全ての保健委員が、自村または近隣村で各村 1 回～6 回、合計 49 回の保健教育を行い、のべ 1,105 人の住民が「両親の責任」「産前健診の重要性」「緊急時の対応・搬送に遅れる要因・緊急プランの重要性」「妊娠中の危険兆候」について学んだ。

市の強化プランにも組み込まれているリプロダクティブヘルスに関連して、本事業スタッフが、15 村 15 校の小学校で 30 回（各校平均 2 回）、のべ 767 人に對し、また 3 村 3 校の中学校及び市中心部の小中一貫校（1 校）で 19 回（各校 4～5 回）、のべ 1,079 人に対し、「自分の身体を知ろう」「妊娠について」「ドラッグと自傷行為」「性感染症、流産」「自尊心」などに関する研修を行った。なお、小中学校におけるリプロダクティブヘルス研修は、当初の試みの中で、性を取り扱うことに対する（現地の伝統文化的価値観に根差した）壁が想定以上に高いと判断し、保健委員ではなく、事業スタッフが実施することとした。

### 4. 保健所、市役所、保健委員、伝統的産婆の連携強化

#### ・啓発活動

市役所や他の NGO などが主催したイベントに關し、プロジェクト側から 17 回参加した。のべ 796 人の一般市民に加え、市役所、保健所、その他 NGO や政府機関などから、のべ 178 人の参加が得られた。イベントでは、「ファーストエイド」「両親の責任」「産前健診の重要性」「母乳の重要性」「性感染症」等に關連した保健教育やプロジェクトの報告を行った。そして、市内全 33 村のリーダー（全員男性）によって構成される市開発委員会（COMUDE）に 7 回出席し、「両親の責任」「緊急時に遅れる要因」「思春期の妊娠とそのリスク」「村で出産する際の男性の補助的重要性」について研修を行った。2020 年 2 月の COMUDE には保健委員と伝統的産婆も出席し、研修で学んだ「緊急プランと適切なリファー」「産前健診の重要性」について村のリーダーたちに自ら説明することができた。7 回の COMUDE を通して、COMUDE メンバーおよび市役所、保健所、その他 NGO や政府機関からのべ 590 人が参加し、母子保健活動に対する意識を高めた。

#### ・定例会合

保健所長及びスタッフ、市役所担当者、保健委員、伝統的産婆の連携向上を目的として本プロジェクトの定例会合を事業期間中に 4 回（2019 年 7 月、9 月、12 月、2020 年 2 月）実施し、のべ 602 人が出席した。そのうち市長は 2 回出席、保健所長は毎回出席した。会合では伝統的産婆と保健委員の代表が、プロジェクトで学んだ知識によって適時にリファーできた実例を紹介したり、保健所が県都サンタ・クルスの病院併設の妊婦の家を紹介したり、市役所女性課が、家庭の栄養向上の重要性について話したりした。本事業からは、保健所と

	<p>市役所に対し、プロジェクト終了後も伝統的産婆と保健委員をフォローすることの重要性を強調した。</p> <p>・モニタリング</p> <p>当初は予定を合わせるのが難しかったものの、保健所のスタッフが伝統的産婆の活動（前項2に記載した啓発活動としての妊婦訪問）に13回、保健委員の活動（村での保健教育）に4回同行してモニタリングすることができた。また、市役所の担当者も、保健委員の活動に10回同行してモニタリングを行つた。保健所スタッフや市役所の担当者は、伝統的産婆や保健委員が母子保健に関する知識を村人に正しく指導していることを確認するとともに、彼らが地域の母子保健向上に果たすことのできる役割を再確認した。</p> <p>・保健所スタッフ研修</p> <p>保健所長からの要請を受け、またその必要性および保健省から提供される研修機会も少ないことに鑑み、保健所スタッフを対象に正しい産前産後健診をテーマとした研修を実施し、24人が参加した。（2020年2月14日変更報告済。）研修では健診に必要な知識、技術の確認を行うとともに、産前健診の際には血圧やサイズを測るだけでなく、その機会に家族計画などの啓発活動も行うことが重要であることなどを学んだ。</p>
（3）達成された成果	<p>本事業で設定した成果の発現状況は以下の通りである。</p> <p><u>成果1：保健施設の環境が向上する。</u></p> <p>→ 設定した2つの指標が達成されており、成果が発現している。</p> <p>指標1-1：研修棟が完成する。</p> <p>→ 達成。</p> <p>新設された研修棟は2019年6月26日に完成し、7月9日から利用が開始された。199.67m<sup>2</sup>の広さがあり、机1台、椅子100脚、白板1台も配置され、多数の参加者を対象にした研修や会合も実施できる環境が整った。以前は、時に混雑した患者の待合室などで研修や会合を行わねばならなかつたが、同研修棟が建設されたことにより、研修や会合を快適な環境下で開催することができ、また待合室を本来の目的に使うことができるようになり、患者の負担も軽減された。</p> <p>指標1-2：研修棟が500人に利用される。</p> <p>→ 達成。</p> <p>開所（7月9日）から事業終了時までに、保健所、市役所、保健委員、伝統的産婆の会合（活動4）、伝統的産婆研修（活動2）、保健所スタッフ研修、その他NGOの研修や保健所内の研修などでのべ1,046人に利用された。</p> <p><u>成果2：伝統的産婆の能力が向上する。</u></p> <p>→ 2つの指標は概ね達成しており、成果は発現していると考えられる。</p> <p>指標2-1：伝統的産婆が研修で学んだ内容の70%以上を正しく理解している。</p> <p>→ 達成。</p> <p>全伝統的産婆研修において、事前テストの平均正答率50%に対し、事後テストの平均正答率は98%であった。</p>

**指標 2-2：研修を受けた伝統的産婆の 70%が研修を生かした活動を実施している。**

→ 達成傾向。

伝統的産婆約 70 人のうち 59 人（84%）の伝統的産婆が保健所へのリファーを推進する活動を行っており、さらに 25 人（36%）は啓発活動も行っていることが確認された。

**成果 3：保健委員の能力が向上する。**

→ 設定した 2 つの指標が達成されており、成果が発現している。

**指標 3-1：研修後の知識を測るテストの平均正答率が 70%以上である。**

→ 達成。

各村での研修における事前テストの平均正答率は 35%、事後テストの平均正答率は 96%であった。

**指標 3-2：研修を受けた保健委員の 70%が研修を生かした活動を実施している。**

→ 達成。

15 村 262 人の保健委員のうち、202 人（78%）が各自村または近隣村で啓発活動を実施した。事業終了時で 15 村 245 人（男性 78、女性 167、1 村あたり 4 人～46 人）が活動の継続を表明している。

**成果 4：保健所スタッフ、市役所のコミュニティへのサポートが向上する。**

→ 設定した 2 つの指標が達成されており、成果が発現している。

**指標 4-1：関係者間の会合が定期的に行われている。**

→ 達成。

事業期間中 4 回（2019 年 7 月、9 月、12 月、2020 年 2 月）にわたり定例会合が開催され、伝統的産婆や保健委員が経験や新たに獲得した知識を共有した。また、毎月実施されている市開発委員会（COMUDE）会合でも、保健委員が活動報告や保健教育を実施している。

**指標 4-2：モニタリング結果が、保健所、市役所、伝統的産婆、保健委員に共有され、その後の活動に活かされている。**

→ 達成。

定例会合では、保健所や市役所のモニタリング担当者から、村で確認された伝統的産婆や保健委員の活動に係る成果や課題がフィードバックされ、母子保健における各自の役割・効果が再確認され、連携した活動につながっている。具体的には、伝統的産婆や本事業を通じて育成された保健委員が、訪問時に確認した妊婦の危険兆候などを直接保健所へ通報したり、自身が行った妊婦への啓発活動を直接保健所へ報告したりするようになった。その結果、保健所スタッフが村の妊婦を往診したり、救急車を村に送って保健所や病院に搬送したりするという対応につながっている。特に、伝統的産婆や保健委員がリファーの必要性を説得しても家族の理解を得られない場合には、家族に内緒で保健所に連絡し、保健所が村の定期訪問のふりをして妊婦を往診したり、場合によっては搬送したりするなどの連携も生まれている。

	<p><u>持続可能な開発目標(SDGs)に該当する目標における成果</u></p> <p>本事業活動により、持続可能な開発目標(SDGs)の目標3のうち、特に下記2つに貢献する成果が発現した。</p> <p>【目標3】あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する。</p> <p>【3.1】2030年までに、世界の妊産婦の死亡率を出生10万人当たり70人未満に削減する。 →「Cero muerte materna(妊産婦死亡ゼロ)」を合言葉に事業が実施され、事業期間中に妊産婦死亡は発生しなかった。</p> <p>【3.7】2030年までに、家族計画、情報・教育及び性と生殖に関する健康の国家戦略・計画への組み入れを含む、性と生殖に関する保健サービスをすべての人々が利用できるようにする。 →研修を通じて、伝統的産婆及び保健委員がリプロダクティブヘルスに関する知識・情報を得たとともに、彼らを通じて妊婦を含む住民も知識・情報を得ることができた。また、地域のリーダーを対象とした研修を通じて、周産期に関する男性の理解を促し、そして小中学校での研修を通じて、多くの青少年がリプロダクティブヘルスに関する知識と情報を得た。さらに、事業を通じて保健所へのリファー(受診紹介)や保健所から村への往診が増え、リプロダクティブヘルスサービスを受ける機会が増えた。</p>
(4) 持続発展性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県保健事務所に譲渡されたサン・バルトロメ・ホコテナンゴ保健所の研修棟は、保健所が主催する公共の目的にのみ利用され、限られたスタッフが鍵を管理して日常の維持管理を行っている。</li> <li>・保健所は、伝統的産婆および保健委員を重要な存在と認識しており、四半期に一度程度の頻度で、彼らに対する研修を定期的に実施する予定であることが確認されている。</li> <li>・伝統的産婆と保健委員は、本事業で得た学びを住民に還元したいと考えており、今後も住民に対する啓発活動が継続的に行われることが期待される。</li> <li>・伝統的産婆や保健委員は、保健所と直接やり取りできる良好な関係を構築できたことで、往診や搬送受け入れ等、保健所が妊産婦をフォローし易くなり、こうした改善された状況が、住民の一層のサービス享受を促進することが期待される。</li> <li>・各村のリーダーであるCOMUDEの男性が、妊娠・出産にまつわる健康が村全体にとって重要であることを認識したことで、母子保健活動に参加しやすい環境が生まれており、今後幅広い住民参加が一層期待できる。</li> </ul>